

シンガポール華人社会における未就学児童のバイリンガル教育

キーワード：シンガポール，言語教育，就学前教育，バイリンガル教育

高橋 美由紀

兵庫教育大学研究紀要 第26巻 抜刷

2005年2月28日

シンガポール華人社会における未就学児童のバイリンガル教育

Bilingual Education in Singapore Chinese Preschoolers

高橋 美由紀*
TAKAHASHI Miyuki

シンガポール華人社会では、公用語である英語と華語、さらに彼らの先祖の出身地で話されていた華語方言が主に使用されている。しかしながら、政府は1965年の分離・独立以来、言語教育政策を重視した英語と民族語の二言語教育政策を実施しており、華人の子ども達は英語と華語の言語教育を幼児期から受けている。本論文では、華人社会の公立、私立幼稚園・保育園における言語教育の実態を調査し、子ども達のバイリンガル教育について考察した。

キーワード：シンガポール、言語教育、就学前教育、バイリンガル教育

Key words：Singapore, Language Education, Early-Childhood Education, Bilingual Education

0. はじめに

かつてシンガポールは植民地支配下において、欧米人、華人、マレー人、インド人等の多言語社会であり、それぞれの民族の共通言語は存在しなかった。植民地政府は、現地の人々が従属的な仕事に就くための英語学校とマレー人のためにマレー語の小学校を設立し、インド人は独自の学校を運営していた。華人は華人社会の成功者の資金により、華語で授業を行う華人学校を設立し、子ども達に華語（マンダリン）教育をおこなった。1959年に政府はマレーシアとの合併を視野に入れ、共通語・国語としてマレー語を選択した。しかしながら、1965年マレーシアからの分離・独立以後、シンガポールは、ビジネス言語、共通言語として英語を選択し、現在では英語と民族語の二言語教育政策を行っている。

国民の約76.8%を占めている華人は、日常言語として英語、華語、華語方言（先祖の出身地の母語）を使用している。しかし、1979年に政府が華語社会の統一化を図るために、華語方言を追放する「マンダリン・キャンペーン」が展開され、それまで日常生活のほとんどの場面で華語方言である福建語や潮州語、広東語等を話していた人々は、家庭以外では華語を話すように努力した。その結果、1980年から1990年までの10年間に、それまで華語方言が使用されていた場所では華語の使用が増加し、華語方言が減少した。一方、学校教育においては、1984～7年までの間に段階的に教育言語を英語に切り替え、それまで民族語を教育用語としていた全小学校を英語学校とした（第一言語は英語・第二言語は民族語）。

1. 就学前教育制度と華人の子ども達の言語教育

シンガポールの華人の子ども達は、政府の言語教育政策により、就学前教育から英語と華語を学んでいる。また、日常生活においてはメディアや家庭、地域社会などの言語環境からも、英語と華語の言語を習得している。

早期から二言語教育を行うメリットとしては、子ども達がシンガポールの多言語の言語環境に容易に慣れることができ、学習を行っている意識しないで会話レベルの言語を習得できることである。さらに、民族を超えてコミュニケーションが図れる能力が自然に習得できることである。このような教育形態は、Mainstream Bilingual Educationと言われ（Baker 1993）、地域の「多数派」言語（民族語）と国際的な言語（英語）の2言語を教育の媒体として使用することと定義されている。そして、その教育の目的としては、Enrichment bilingual education⁽¹⁾のプログラムを通じて、子どもたちが2言語で読み書きができ、十分な言語能力を育成することである。

シンガポールの就学前教育は、Ministry of Community Development, Youth and Sports (MCYS) が管轄となっている「Child Care Centres (CCCs)」と、Ministry of Education (MOE) が管轄となっている「Kindergarten」が行っている。いずれも政府の機関と民間経営のものがある。

2003年にMOEでは幼児カリキュラムにおけるフレームワークを刊行し、シンガポールの幼稚園教育の目標を「生涯学習者にわたる学習者を発展させていくために、考えて学び、学び考えるような子ども達を育てるため」とした。そして、思考力を発達させるために、言語と思

*兵庫教育大学学校教育学部附属実技教育研究指導センター

平成16年10月20日受理

考が密接に関連していることを指摘し、そのためには、「言語能力を発達させる必要があり、幼稚園カリキュラムには言語技術に関する強固な基礎作りが求められる」としている (Ministry of Education in Singapore 2004)。さらに、カリキュラムを作成する指針の中に、英語と母語 (民族語) で効果的にコミュニケーションできる能力についても列挙している。

2. 保育園教育

「保育」が目的であるCCCsは、全国で676箇所あり、2004年8月では、生後2ヶ月から18ヶ月の乳児と18ヶ月から6歳までの子ども43,660人が登録されている (Ministry of Community Development, Youth and Sports の調査)。一クラス10人前後のクラスサイズであり、教師が子ども達一人一人に行き届いた保育ができる。保育時間は、全日制が月曜から金曜までは午前7時から午後7時まで、土曜日は午前7時から午後2時までと半日制が月曜から金曜まで午前7時から午後2時までである。保護者の都合でプログラムを選択することはできるが、殆どの園児が全日制であり、カリキュラムもタイムテーブルも全日制を対象にした内容である。保育料は経営組織や保育内容によって、全日制で月額S\$300~S\$1,800とかなり格差があるが、平均では月額S\$585程度である。政府の補助金制度により、最大で有職者の母親には月額S\$150、無職の母親にはS\$75の補助がある。また、2ヶ月から18ヶ月の乳児を預けて働く母親の場合には最大S\$400が補助される。

CCCsの運営は、National Trades Union Congress (NTUC)、People's Association組織下にあるCommunity CentresやCommunity Club、私立保育園が行っている。

2-1. 公立の保育園教育と言語教育

NTUC Childcareは、NTUCの付設機関⁽²⁾であったが、1992年4月1日から協同組織となった。当初は保護者がNTUC会員である子どもを保育するための機関であったが、現在はNTUC会員以外の子ども達の保育も行っている。保育園は、全国で39箇所あり、18ヶ月から6歳までの子どもを3,000名以上収容している。

カリキュラムは英語と華語のバイリンガル教育を中心とした構成で行われており、主にしつけ等の教育面と就学のための基礎学習面において、子どもの発達を促進させることや学習経験をさせることを目的としたプログラムが組まれている。18ヶ月から3歳までは子どもの発育を促進させるための日常生活について、トイレ習慣、食事、着替え等のしつけを行う。4歳から6歳までの子ども達は、子ども達の発達段階と年齢に適したレベルで、就学の準備期間としての学習を行う。

子ども達は保護者に連れられて朝7時に登園する。彼らは、一日の殆どを園で過ごす。友人と一緒に園で朝食を食べ、ブロックなどの室内遊びやテレビを視聴する。4歳から5歳の子どものクラスであるK1、5歳から6歳のクラスであるK2では、英語、華語、理科、算数、コンピュータといった学習を毎日行う。その後、シャワータイムがあり、昼食を食べる。午後は音楽や絵画、ジャングルジムやシーソーで遊ぶなどアクティビティタイム、昼寝、おやつ、その後保護者が迎えに来るまで、教師と絵本を読んだりして過ごす。

People's Associationは、政府のコミュニティ政策開発機関として1960年に設立され、Community CentresやCommunity Clubはその組織下に社会教育機関として置かれている。全国で107カ所あるCommunity CentresやCommunity Clubの内、21カ所がCCCsを設置している。CCCsは1979年に初めて設置され、Community CentresやCommunity Clubと同じ場所にあり、地区に住んでいる人々のコミュニティ・サービスの一環として、就労のために子どもの保育ができない保護者や周囲に祖父母など子どもの保育を依頼できる人がいない場合に利用されている。保育を中心とした内容であるが、学習も3歳から始めている。

筆者が訪問したCCCsは、2歳から3歳までのクラスのNursery 1が11名、3歳から4歳までのクラスのNursery 2が9名、4歳から5歳までのクラスのK1が3名、5歳から6歳までのクラスのK2が4名であり、民族構成は華人31名、インド系2名であった。イスラム教徒が多いマレー系は、宗教的な理由から保育時間が長いCCCsは倦厭されるようである。

子ども達の日常生活のしつけや教育言語として話されている言語は原則的には英語であるが、華語の得意な保育士は華語で、英語が得意な保育士は英語を使用して、それぞれ学習科目を担当して教えている。また、保育士は子ども達が話す言語に対応して、英語と華語の両方を使い分けて話すこともある。

学習科目であるPre-Primary Workbookの時間には、月・水曜日に英語、火・木曜日に華語、金曜日に算数を、ワークブックを使用した活動を中心とした内容で子ども達に「学習するための基礎」を習得させている。ワークブックにはアルファベットや華語の文字の読み・書き、算数の問題を解かせるなどの内容であるが、子ども達が親しめるように文字より絵が多い。

ワークブックの内容は、ぬりえやシールを貼ったり、絵を描かせたりする様な遊びの要素が多く盛り込まれ、体験的な活動を通して学習させることができる。鉛筆がきちんと持てない3歳以下の子ども達はクレヨンを使用していたが、「書くこと」に抵抗を覚えないで、自然に文字学習につなげていける内容であった。また、

Reading Program, Story Time, Nursery Rhyme等は、月・水・金曜日は英語で、火・木曜日は華語で教えられている。さらに、TVの時間においても、英語と華語のチャンネルを曜日ごとに選択して、子ども達が興味を持つアニメや幼児番組を見せている。

2-2. 私立保育園教育と言語教育

私立保育園は経営者の方針や保護者のニーズによってその内容は様々である。単に保育を目的としたものから、子ども達の言語教育や情操教育を長時間行うことを目的としたものまである。

筆者が訪れた私立保育園のThe Brain-Based School houseは、保育時間が午前8時から夕方6時までのCCCsである。都心のオフィス街のビルであるTanjong Pagar Plazaの二階にあるので、保護者は子どもを出勤前にこの保育園に預け、帰宅時に迎えに行くことができる。園の入り口は保護者がカードを挿入してドアが開く仕組みになっていた。ここでは、18ヶ月から6歳までの子どもを保育しており、Toddler、Nursery1、Nursery2、K1、K2のクラスがある。保育士は担任で英語、算数などを教えるシンガポール人の保育士と華語を専属で教える中国本土出身の保育士がいる。英語と華語、算数のレッスンは毎日40分程度あり、さらに、木曜日には非常勤の日本人の保育士が日本語を教える。ビルの二階の保育園は、室内遊びのためのブロックや絵本、トランポリンなどはあるが、子ども達が走り回れるような広いスペースはなかった。10人程度の机が並ぶ教室は採光のために上半分がガラスで下は板で仕切られていた。子ども達は学習の時間と朝食、昼食、スナックタイム、昼寝等、毎日ほぼ同じスケジュールで生活している。

The Brain-Based School houseの園名の通り、この保育園では「子どもの脳を開発する教育」を行うことを目的として、日本、イギリス、アメリカの医学博士らが提唱する教育方法で子ども達の能力開発教育にあっている。具体的には、記憶力を高めるための学習や創造力を養うために、子ども達に速読や暗記テスト、話している言葉の速度を速めて聞き取らせる問題などをToddlerクラスから行っている。また、積み木の数を数えたり、図形や加減の暗算、仲間捜しなど知能テスト的な内容のワークブックを時間制限をして解かせたり、絵を見て英文と華語文を作らせたりしている。子どもの脳を刺激することと、クリエイティブな教育を行っていると園長先生は話してくれたが、早期教育のメリットとして挙げられる情操教育の要素よりも学習訓練的な感じが強かった。

保育料は一ヶ月S\$850であり、NTUCやCommunity CentresのCCCsよりかなり高い。しかし、「子どもの脳開発」という保育内容と華語や日本語教師がネイティブであるということに惹かれて、教育熱心な保護者が子

どもを預けている。

3. 幼稚園教育

Ministry of Education (MOE)の管轄である幼稚園は3歳から6歳までの子ども達に就学前教育を行うことを目的としている。通常は午前と午後の2部制を取っている。Nursery、K1、K2のMOEの3年間の幼稚園教育プログラムに従って、月曜日から金曜日まで一日3時間から4時間程度の教育を子ども達に提供している。保育園と異なり、学校教育のスケジュールと同様であるので、1月2日から新学期が始まり、10週間を1学期として4学期制で教育が行われている。また、1学期と3学期の終了時にそれぞれ1週間、2学期終了時に4週間、年度末に6週間の休みがある。

MOEは子ども達が英語と母語(民族語:華語、マレー語、タミル語)を学ぶことができるカリキュラムを実施することを掲げ、日常のプログラムとしては、社会生活を営む基本的な能力を習得させる、基礎的な言語スキルや数の概念、科学や社会の学習につなげるための基本的なスキル、問題を解決できるクリエイティブな能力の開発、道徳的な価値観、音楽鑑賞や身体的な活動、屋外遊びなどを行うことを指示している(MOE 2001)。

Mr. Tharman⁽³⁾によって2003年1月20日から新Pre-school教育として、子どもの積極性を養い、自信を持たせるために体験的な学習を基礎とした教育が開始された。以前の学習の基本である、読む力や書く力、計算能力などだけではなく、子ども達が自ら疑問を見つけ出し、それを対処していく能力を身につけさせるための教育を行うことになった。

これは、2002年度の研究開発幼稚園(32のPCF幼稚園1336名)で行った結果で明らかにされたが、子ども達は問題を解決する能力や社会的なスキルが向上し、とりわけ、低所得者の家庭や英語を話さない家庭の子どもたちにとっては、英語のスキル面の向上も見られたことによるものである(Media Group Pte Ltd 2003)。

3-1. 公立幼稚園教育と言語教育

国内最大規模の幼稚園はPCF幼稚園である。PCF幼稚園は、国民の約88%の人々が住んでいるHDBの一階に位置しているため、地域の子供達が通うのには便利であり、全国302箇所に約7,000名の子ども達が通っている。4歳から5歳までのK1と5歳から6歳までのK2クラスには、その年齢の子ども達の約75%がこの幼稚園で就学前教育を受けている。教師は、英語が第一言語であり、中等後教育の入学資格である「GCE-Oレベル試験」に合格した以上の資格を有する者としてMOEが採用している。カリキュラムは幼稚園によって若干異なるが、英語を教育言語として、英語、算数、理科などを教

えている。最近これらの科目を「総合的な学習」として教える授業もある。例えば、「植物」「動物」をテーマにして、英語、算数、理科の分野を全て網羅した内容を組み入れて教えている。華語教育は、毎日1時間教えている幼稚園もあれば、1週間に2回1時間ずつ行っている幼稚園もある。教師は、シンガポール人教師であり、担任が英語と華語の両言語を教えている場合もある。

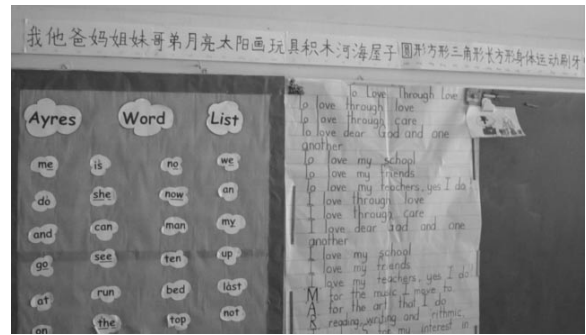
PCF幼稚園は、People's Action Party Community Foundation (PCF) が1986年に設置されたのに伴い、People's Action Party (PAP) が、1960年代初期に低コストの幼稚園を数箇所設置したものを踏襲して設置された。月謝は1ヶ月\$60～\$100とかなり安い。当時から就学前教育の "Project Kindergarten" として、カリキュラム開発などを行ってきた。

PCF幼稚園の教育時間とクラスサイズは子どもの年齢によって異なっている。幼稚園によって異なるが、Yio Chu Kang Education Centre管轄のPCF幼稚園では、一クラス10人前後のNurseryクラスのみ2部制になっており、午前9時から12時までの午前クラスと午後1時から4時までの午後クラスがある。一方、K1とK2のクラスは同じ教室を使用しているため、2部制にはできない。K1クラスは午後1時から4時30分まで、K2クラスは午前8時から12時までである。K1とK2は一クラスの人数が30名近い子ども達が一つのクラスで授業を受けている。

教室は小学校と同じように、一人一人の個人机が前面方向に整列しており、学習体制が整えられていた。掲示物は英語、華語、科学の学習コーナーなどがあり、子ども達の興味を引くように絵などの飾りづけがしてあった。幼児期には、子ども達が基本的な日常生活の習慣を身につけることや社会性を養うことが重要な教育であるということで、トイレのマナーや友人との関わり方等も集団生活を通して教育している。

小学校準備段階の学習としては英語、華語、算数を中心に行っている。これらの科目に対して、K1、K2の子ども達には「課題テスト」を毎週課している。英語と華語の学習は「ライティング」をより重視した学習である。K2の算数では、繰り上がりのある足し算・引き算等を学習する。「英語のスペルや華語の文字が書ける」「計算が正しく速くできる」ことを学習目標とした内容で授業が行われており、教師は子ども達の練習問題ドリルを厳しくチェックする。

PCFの全ての幼稚園では、子ども達が小学校へ入学する前に統一の卒業試験を実施している。そのため、教師が受け持っているクラスの子ども達の成績を良くするために、毎日計画的に「テストのための教育」を行っている。また、保護者には、毎週幼稚園で行う「課題テスト」の計画表を渡して、家庭で子ども達の宿題やテスト



K2の英語と華語の掲示 (2002年筆者撮影)

勉強をさせることを強制している。保護者は子ども達のテストの結果に一喜一憂し、家庭学習環境をより充実させるために努力している。

園歌である "The PCF Song—We are Happy Little Kids" は、国語であるマレー語ではなく、英語が教育用語となっているので、英語の歌である。また、華語教育の時間は、原則として華語専門のシンガポール人教師であるが、専門教師がいない場合には、英語の教師が兼任している。したがって、教育熱心な保護者は子どもを幼稚園の教育時間以外で、華語の発音を教える塾や本読みや文字の書き方を学ぶ学習塾に通わせて、小学校入学の準備をしている。

卒園式は、それぞれの幼稚園単位ではなく、その地域のブロックにあるPCFの幼稚園全体で行う。2003年11月15日には、Yio Chu Kang Education Centre管轄の4つの幼稚園が合同で卒園式を挙行了。夕方6時45分から始まった卒園式には、地域の有識者も多数出席し、卒園の子ども達の代表3人が、英語、マレー語、華語の順でそれぞれスピーチを行った。次に、卒業試験のテストとアセスメントの結果により、成績優秀者の1位から3位までの子どもや、クラス代表の子ども達10人程度が表彰された。最後に、卒園する子ども達が「お遊戯」を披露した。内容は、華語の歌のお遊戯が5曲、英語の歌のお遊戯が3曲、マレー語の歌のお遊戯が1曲、曲だけのお遊戯が1曲であった。また司会は英語、華語、マレー語で代表の子ども達が民族衣装をつけて行った。このように、子ども達の成績や演技に対して、教師の指導力が比較されるため、K2を受け持つ教師はかなりのプレッシャーを感じるという。

3-2. 私立幼稚園教育と言語教育

現在、私立幼稚園では、台湾や中国本土出身の華語教師を雇って子ども達に華語を教えている。経営者にとっては、シンガポール人の華語教師よりも人件費が安く抑えられること、さらに、ネイティブ華語教師はシンガポール人の華語教師よりも、発音が良く、発話の時の語彙数が多いということで、一部の保護者の間では人気も高い。

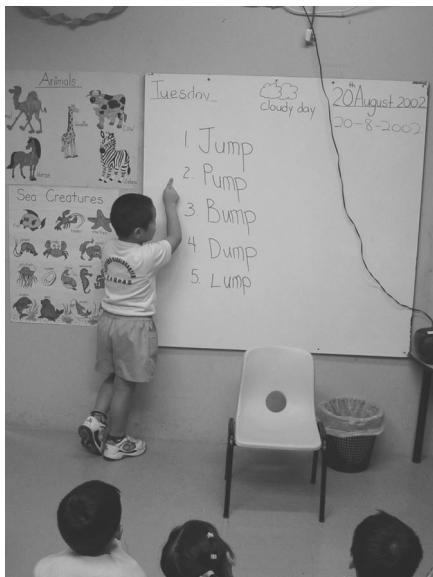
私立のClifford Kindergartenは一戸建ての家が立ち並ぶ住宅地にあり、一戸建てのバンガローハウスを改造して幼稚園を運営している。送迎のマイクロバスで広範囲から子ども達を集め、Nursery、K1、K2ともに月曜から金曜まで1日4時間のカリキュラムで行う。午前8時15分から12時15分までの午前クラスと午後12時30分から4時30分までの午後のクラスの2部制となっている。学費は1学期ごとにS\$590である。この幼稚園では、華語教師はネイティブであることや“Speech & Drama”のレッスンがあることが特徴となっている。クラスサイズは、K1が15名前後、K2は20名前後であり、少人数クラスで教育している。

教室内の掲示は、花の絵に「Flower/花」と英語と華語の両方の言語で書かれていた。掲示は、数字、アルファベット、色、漢字の書き順などがコーナーを設けて貼ってあった。教育内容は表2の様に音楽要素を採り入れたリズム遊びや脳開発のための時間もあった。

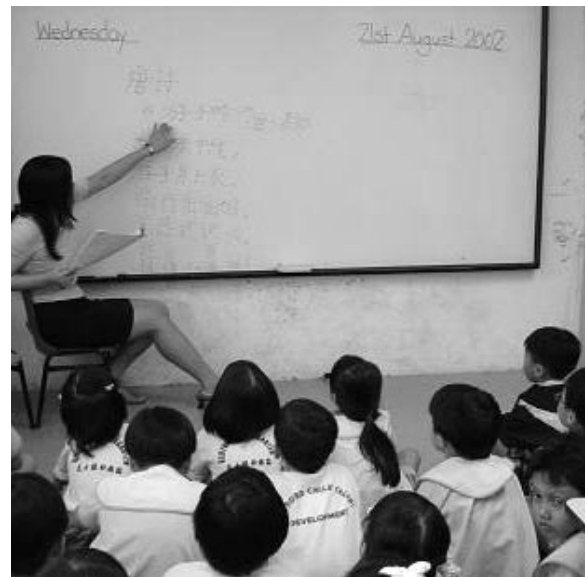
英語教育は、文字と音声を結びつけて学ばせるフォニックスと単語の綴りを覚えるスペリング学習、絵本教材や劇、ゲームを行うスピーチ&ドラマ等である。K1のフォニックスのレッスンでは、英語圏出身の男性教師が指導に当たっていた。はじめに、Jump, Dump, Pump, Lump, Thump, Stump, Slumpという語彙で教師が発音しながら、J, D, P, L, Th, S, Slの文字を入れ、次に、子ども達に文字を見せながら、何度も発話させ、正しい英語の音声を定着させていた。その後、同じ文字のアルファベットに色を塗ったり、フォニックスでリズム遊びの歌を歌ったりした。華語教育は、華語の正しい発音で文字の読み方指導を行うHanyupinyinのレッスンと、漢字の書き順と語彙を覚える文字指導、漢詩、絵本、歌である。K2の「漢詩」のレッスンでは、「唐詩」の

「游子吟」を教えていた。この詩は、儒教精神を子ども達に教えるためには適した内容で、母親が衣服を縫いながら、子どもが帰宅するのを心配しているという、母親の子どもへの愛について語った詩であった。教師ははじめに、黒板に「游子吟」の詩をすべて華語で書き、次に、文字を指し示して子ども達に一語一語「読み方指導」を行い、何度も復唱させた。その後、詩の意味を華語と英語で教えていた。最後に、子ども達一人一人を前に出して、友人の前で暗唱させていた。

教会が経営する私立幼稚園であるSt. Francis Xavier Play Centerは、キリスト教の信者だけでなく、地域の子ども達にも門戸を開いており、子ども達はスクールバスや徒歩で通園している。月曜日から金曜日まで、2歳から3歳までを対象にしたPlaygroupは2時間のプログラム、一方、3歳から4歳までのNursery、4歳から5歳までのK1、5歳から6歳までのK2は3時間プログラムで行っている。2部制を取っているので、8時30分から11時30分までのクラスと11時30分から14時30分までのクラスがある。それぞれのクラスが午前2クラス、午後2クラスで計16クラスあり、クラスサイズは、午前のセッションの方が大きく、Playgroupは10人程度、Nurseryは27~28人、Kindergartenは30~32人である。午後は午前の人数より若干少なくKindergartenのクラスで22人であった。学費は1ターム(約3ヶ月=10週間)で、PlaygroupがS\$380、NurseryがS\$320、K1/2がS\$420でありPFCの幼稚園よりやや高い。教師は、園長、英語を主として話し華語以外の授業と担任を受け持つ8人、華語の授業のみを教えている4人の計13人で子ども達の教育を行っている。この幼稚園は華語教師も全てシンガポール人であり、ネイティブ教師にそれほどこだわっていないと思われる。カリキュラムは毎日同じであり、Playgroupのス



K1のフォニックスのレッスン (2002年筆者撮影)



K2の漢詩のレッスン (2002年筆者撮影)

表2：Time Table at Clifford Kindergarten

<Nursery >

	Mon.	Tue.	Wed.	Thurs.	Fri.
8:15 ~ 8:45	Phonics	Phonics	Chinese	Brain power	Chinese
8:45 ~ 9:15	Brain power	Chinese	Phonics	Chinese	Speech & Drama
9:15 ~ 9:45	Chinese	Abacus	Ancient poems	Hanyupinyin	Brain power (Computer)
9:45 ~ 10:15	Hanyupinyin	Snack	Snack	English	Snack
10:15 ~ 10:45	Snack	Numbers	Computer	Snack	Brain power Flashcards
10:45 ~ 11:15	Numbers	Music & Dancing	Brain power Flashcards	English	English
11:15 ~ 11:45	English	Music & Dancing	Art	Numbers	English
11:45 ~ 12:15	Rhymes	Rhymes	Art	Numbers	Storytelling

午後は12:30から4:30まで同じスケジュール

<K1 >

	Mon.	Tue.	Wed.	Thurs.	Fri.
8:15 ~ 8:45	Art	Math	English	Math	Math
8:45 ~ 9:15	Art	Math	English	Chinese	Ancient Poem
9:15 ~ 9:45	English	Chinese	Abacus	Brain power	English
9:45 ~ 10:15	Snack	Snack	Snack	Snack	Snack
10:15 ~ 10:45	Chinese	Speech & Drama	Chinese	English	Chinese
10:45 ~ 11:15	Computer	Calligraphy	Chinese	English	Hanyupinyin
11:15 ~ 11:45	Math	English	Phonics	Phonics	Phonics
11:45 ~ 12:15	Math	Brain power	Brain power	Brain power	Brain power

午後は12:30から4:30まで同じスケジュール

<K2 >

	Mon.	Tue.	Wed.	Thurs.	Fri.
8:15 ~ 8:45	Chinese	English	Math	Chinese	Chinese
8:45 ~ 9:15	Chinese	English	Phonics	Phonics	Phonics
9:15 ~ 9:45	English	Math	Math	English	English
9:45 ~ 10:15	Snack	Brain power	Snack	Snack	Snack
10:15 ~ 10:45	Math	Calligraphy	Abacus	Ancient Poem	Art
10:45 ~ 11:15	Speech & Drama	Snack	English	Math	Art
11:15 ~ 11:45	Hanyupinyin	Chinese	English	Math	Computer
11:45 ~ 12:15	Brain power	Chinese	Brain power	Brain power	Brain power

午後は12:30から4:30まで同じスケジュール



K2の算数の時間 金額とお金の計算をするドリル問題。教育言語は英語である (2003年筆者撮影)

スケジュールは、Assembly/Moralが10分間、Music & Movementが20分間、Chinese Lesson (Story & Rhyme & Activity) が20分間、Snackが20分間、Outdoorが20分間、English Lessons (English & Numbers Activity) が20分間である。また、Nursery、K1とK2のスケジュールは、Assemblyが10分間、Snackが20分間、Outdoorが20分間、Chinese Lesson (Story & Rhyme & Activity) が40分間、Music & Movementが20分間、Indoor Activity (English, Numbers & Art) が40分間、English Story & Rhymesが20分間、Bible/Moral Educationが10分間である。さらに、コンピュータ教育をK1とK2クラスで週に1度45分間行っており、Outdoor、Music & MovementとBible/Moral Educationの時間がその時間に充てられている。

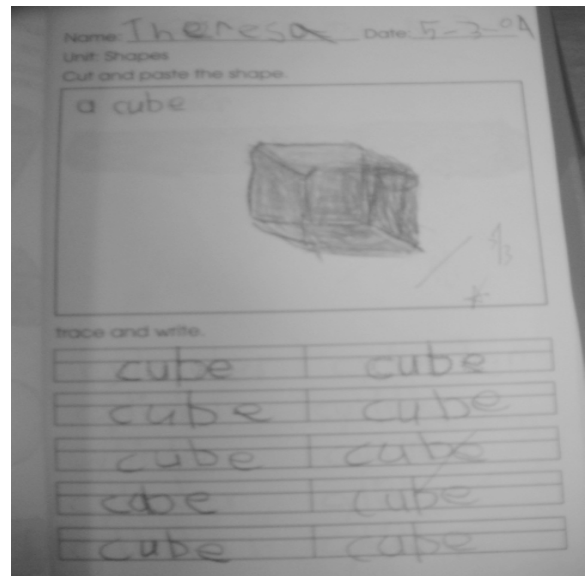
K2のEnglishレッスンを参観した。Phonicsの学習では、シンガポール教師の英語ではなく、イギリス英語の発音のテープを子ども達に聴かせ、文字と音声を関連させて教えていた。次にフォニックスで教えた単語をセンテンスにして読ませ、最後に英語の歌でリズムと音声の定着を図っていた。K1のEnglishレッスンではリーディングの学習として、教師が絵本を使用した。最初に子ども達に読み聞かせを行い、次にその絵本の内容について教師が質問し、子ども達が答えていた。最後に、子ども達が絵本に登場した動物になってロールプレイを行い、鳴き声や台詞を発話していた。

K1の華語レッスンでは、音声と文字を教えるために、例えば、オレンジの絵と「橙」の文字カードをマッチさせる練習を行っていた。「華語」はアルファベットと異なり、「絵文字」として子ども達は覚える様である。音声は教師が華語文字を指し示しながら、教えていた。アルファベットではスペルアウトをするが、華語は書き順を教えることで、文字指導を行なっている。

教会幼稚園の特徴としては、Bible/Moral Educationの教育を行っていることであり、幼稚園の行事にも反映している。また、Clifford Kindergartenのように、華語教育を行いながら、儒教精神を教えるような授業はなかった。一方、「能力開発」のような英才教育は行っていないが、保護者のニーズに応え、K1とK2のクラスでは、英語、華語、算数のドリルや毎週火曜日に英語と金曜日に華語のスペリングのテストをしている。また、Nursery、K1、K2の子ども達に、華語の特別レッスンプログラムである、Chinese language Reading (Phonetic) Programを正規の授業の別に、毎週月曜日1時間程度行っている。この料金は10週でS\$200であるが、華語が苦手な保護者達は子ども達に積極的にレッスンを受けさせている。

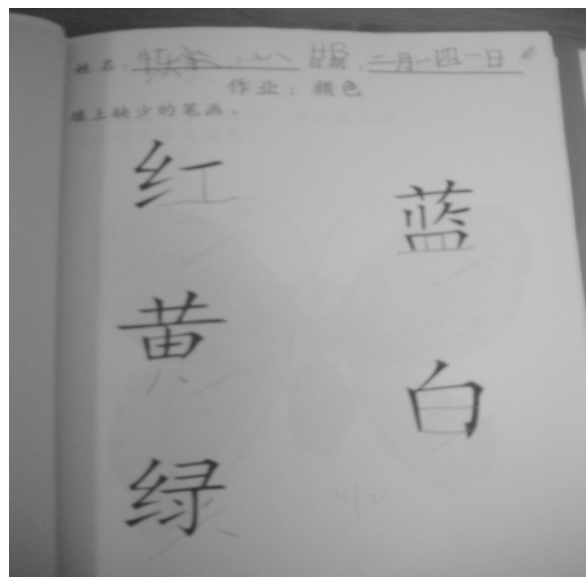
私立幼稚園は、PCFの幼稚園に比べて情操教育を重視している。たとえば、Music & MovementやArtの

レッスンが私立は毎日行われているが、PFCは一週間に一度程度であり、よりドリル的な勉強をさせる時間が多いと思われる。また、コンピュータ教育も私立では学習時間を設けて行われている。



K2の英語の学習帳

単語の絵を描き、アルファベットでスペル練習を行う。
(2004年3月筆者撮影)



K2の華語の練習帳

書き順を重視し、漢字を絵文字として子ども達はとらえている。(2004年2月筆者撮影)

4. 考察

言語教育における英語の位置づけは、「情報を得たり、経験を共有したり、他の人々（民族）とコミュニケーションを行う時の主な手段」である。一方、華語の役割は、「華人社会の共通言語として、さらに華人の文化を継承するための言語」として日常生活で使用することを政府が奨励している。そして、国家の言語政策により、英語も民族語（華語）も第一言語レベルでの学習が要求されている。華人の子どもたちは日常の言語環境により、これらの言語を学ぶことができるが、学校教育においても、小学校入学前から英語を教育言語とし、華語は民族語として華人社会の日常生活で使用する華語が理解できるような教育から、小学校の先取り学習まで行っている。また、一部の私立幼稚園では、儒教精神などの道徳の教育言語としても華語を学んでいる。

学習に対するレッスン時間はそれぞれの機関によって様々であるが、どの機関も言語教育を重視したカリキュラムになっている。カリキュラムに沿って、英語はフォニックス、語彙、スペルを覚える学習を中心にして展開し、小学校入学準備を目的とした教育をしている。一方、華語は漢字の書き順や文字だけでなく、伝統的な華人文化を継承させることや、中国本土との関係を深めることも視野に置いて、華語コミュニケーション能力養成の教育も行っている。

教師は殆どがシンガポール人であるが、英語と華語は異なった教師がそれぞれの言語を教えている。しかしながら、私立保育園や幼稚園では、華語教師として中国本土や台湾出身のネイティブ教師が教えている場合が多い。また、フォニックスやストーリー・テリング等を中心に指導している英語教師は、シンガポール人だけでなく、インドや英語圏出身の教師もいる。そして、子どもの言語教育では音声重視であるので、英語の音声を正しく教えるために、CDやカセット等の聴覚教材も使用されている。また、日常生活習慣については、英語教師と華語教師の二人が教育している場合もあり、子ども達は、同じ教室に英語と華語の教師がいても、英語の教師には英語で「teacher」、華語の教師には華語で「老師」といったように話しかけている。このようなケースからもバイリンガル教育の成果がみられた。さらに、教室の掲示物等は、英語と華語の両方の言語で書かれてあり、子ども達が自由時間に楽しむ絵本も英語と華語の両方のものがあった。

子どもの言語教育は、楽しく、無意識に学ぶことが一番重要とされているので、子ども達は歌やリズム遊び、教師による絵本の読み聞かせなど音声中心の楽しいレッスンを通して学んでいる。また視聴覚教材も多く使用できる環境にあるので、テレビ、VDC（ビデオ）等の娯楽番組を通して子ども達は、両言語を学ぶこともできる。

しかしながら、言語学習の時間では、定着を図るために文字教育を導入している。幼児期から文字教育のためのドリルやワークブックなどの学習をどの機関でも熱心に行っている。この結果、子ども達は机上の学習に対する抵抗感はあまりなく、自然に英語と華語の両方の文字を導入して学習している。さらに、子ども達は、文字を理解することにより、絵本などを利用して自主学習が幼い時からでき、絵本の内容によっては、英語、華語それぞれの言語で絵本を読むことができる。

公立と私立を比較すると、公立の機関では、ドリル的な文字教育や語学学習が多く感じられた。一方、私立の機関では、情操教育を重視した、リズム遊びやスピーチドラマなどを通して学ぶ体験的な語学学習も多く取り入れられていた。とりわけ、華語教育では、文字の書き順や形等、言語のスキルだけでなく、言語の背景にある文化を学び儒教精神を養うなど、子ども達が無意識に言語学習から、言語・文化、華人のアイデンティティを習得できるような方法で言語教育を行っている。また、私立の機関では、正しい華語の音声を学ぶHanyupinyin、書道のCalligraphy等のレッスン科目が細分化されて、公立の機関よりスペシャルな言語教育が実施されている。

上記のことから、シンガポール華人社会における英語と華語のバイリンガル教育は、言語政策的にも言語環境的にも整っている。しかしながら、このバイリンガル教育は、子ども達が英語と華語のそれぞれの言語に親しみを持ち、さらに、子ども達の言語能力を開発するためのカリキュラムというよりは、小学校入学準備のための言語教育としてのウエイトが高いと思われる。すなわち、語学教育そのものに焦点をあて、小学校での学習に必要な、読み、書き、教師の話を理解する、といったスキル能力を向上させることを第一としている。したがって、本来、生活習慣を身につけ、楽しく学ぶことを目的としている入学前教育であるものが、K2の卒園時に小学校に入学後の学習に適応できることが目標になっており、子ども達はそれを達成するためにドリル的なワークブックを使用して詰め込み型の言語教育を行うことを強いられている。この傾向は公立の方が強く見られるが、能力開発等を行っている私立では、さらに学習訓練としての傾向が強く見られる。また、家庭においても保護者が、小学校入学後のことを懸念して、子ども達の語学学習には、とりわけ熱心に教育をつけさせている。

アジア諸国では、シンガポールの様な言語状況でのみ、バイリンガル教育が成立している。しかしながら、このようなバイリンガル環境が整ってきた国でさえ、言語教育では子ども達が自然に言語を習得するような教育ではなく、詰め込み型の教育が強いられている。それ故、子ども達や教師、保護者が受けているプレッシャーは大きい。

時代の趨勢により、アジア諸国において、英語と母語のバイリンガル教育を子ども達の言語教育の目的としている学校も多く設立されはじめた。しかしながら、詰め込み学習を強制しないで、子どもの言語習得の特性を生かしたバイリンガル教育のあり方を考察する必要があることを認識しなくてはならない。

注

- (1) Otheguy & Otto (1980) によれば、バイリンガル教育は目的によって区別され、Enrichment bilingual educationは、子どもたちが家庭で使用している言語の技能を十分に伸ばし、多数派言語(英語)と両方の言語の熟達度を高め、リテラシー能力を習得することを目的としている教育である。
- (2) 1977年にNTUC付設のCCCsとして始まった。
- (3) 彼はSenior Minister of State for Trade and Industry and Educationである。

参考文献

池田充裕 2003. 「シンガポールの就学前教育の概要および関連資料の解説」『タイ・マレーシア・シンガポールにおける就学前教育の実態に関する実証的比較研究－民族性・国際性の育成と国際化への対応を中心として－中間報告書(資料分析集)』

小木裕文 1995. 『シンガポール・マレーシアの華人社会と教育変容』(株) 光生館.

情報文化省編 1990. "SINGAPORE 1990"

高橋美由紀 2001. 「シンガポール華人における言語と小学校入学前の言語教育」中部学院大学・中部学院大学短期大学部研究紀要第3号.

田中恭子 2000. 「複合移民社会の国民統合－シンガポールの場合」西川長夫 他(編)『アジアの多文化社会と国民国家』人文書院.

Baker, C. 1993. *Foundation of Bilingual Education and Bilingualism*. Clevedon: Multilingual Matters.

Loke, K.K. 1997. Chinese Singaporean Children and Their Bilingual Development in pre-school Centers. Gopinathan, S. et al. (ed.) *Language, Society and Education in Singapore: Issues and Trends*. Times Academic Press. Singapore.

McLaughlin, B. 1984. *Second Language Acquisition in Childhood. Volume 1 : Preschool Children*. Hillsdale, N J: Lawrence Erlbaum.

McLaughlin, B. 1985. *Second Language Acquisition in Childhood. Volume 2 : School Age Children*. Hillsdale, N J: Lawrence Erlbaum.

Ministry of Education 2001a. *English language*

Syllabus 2001 for Primary and Secondary Schools. Singapore Ministry of Education.

Ministry of Education 2001b. *Education Statistics Digest 2001*. Singapore Ministry of Education.

Ministry of Education 2002. *Directory of Schools. Educational & Institutions 2002*. Singapore Ministry of Education.

Ministry of Education 2003. *Directory of Schools. Educational & Institutions 2003*. Singapore Ministry of Education.

Ministry of Education in Singapore 2004. <http://www1.moe.edu.sg/>

Media Group Pte Ltd. 2003. http://www.mediagroup.com.sg/Preschool/articles/feb04_1.htm

Otheguy, R. & Otto, R. 1980. The myth of static maintenance in bilingual education. *Modern Language Journal* 64(3), 350-356.

Skutnabb-Kangas and Toukomaa, P. 1976. *Teaching Migrant Children Mother Tongue and Learning the Language of the Host Country in the Context of the Socio-Cultural Situation of the Migrant's Family*. Tampere, Finland: Tukimuksia research Reports.

Tan, J., S. Gopinathan & H.W. Kam 1997. *Education in Singapore*. Prentice Hall. Singapore.

STATISTICS SINGAPORE 2003. <http://sam11.moe.gov.sg/esd/indexA.htm>